



認定特定非営利活動法人

青少年の自立を支える会 通信

冬

平成29年

2017年1月

会報 第65号

目次

巻頭「年頭に当たって」

第7回子ども虐待をなくそう！県民のつどい報告

第19回星の家まつり報告

第18回チャリティーコンサート報告

寄付・会費納入者

編集後記



はなの家の正月飾りと猫の“こさめ”ちゃんです

年頭に当たって

理事長 星 俊彦

皆様のご支援にこころより御礼を申し上げます。おかげさまで今年は「青少年の自立を支える会」も設立20周年を迎えることになりました。多くの皆様方の子どもたちへの思いが、20年という長きに渡って私たちを支え、自立援助ホーム「星の家」やファミリーホーム「はなの家」を支え、子どもたちの成長、自立を支えてきたのです。感謝に堪えません。ありがとうございます。

さて20年前には20か所程度しかなかった自立援助ホームも、現在は約130か所に増えました。措置費制度のなかに組み込まれ、不十分ながら全体的に運営面で少しは楽になっていることは確かです。

しかし、いつも、何度でも繰り返しますが、私たちの目標は「星の家」の安定した運営ではありません。もちろん運営が安定しなければろくな仕事はできませんが、安定第一が目的になってしまえば、何のために存在しているのかわからなくなってしまいます。必要としている子に必要な支援を！これを忘れてはいけません。

ありきたりなスローガンですが、20周年という節目にあたり「初心に戻る」ということを強調したいと思います。そして「支える会」の

活動全体を、点検・整理しながら、これからの社会的養育が進むべき方向を、日々の子どもたちとの実践を通して探っていきたいと思います。私たちの目指すものは何か？ そのために何をなすべきなのか？ 私たちは子どもたちにとって何者なのか？ その答は子どもたちとのやり取りの中にきっと見つかるはずです。

星の家ができたころ、「自立」という言葉をキーワードにした児童福祉法、社会的養護のシステムの改革が始まったと記憶しています。(制度の中の)自分の守備範囲だけ大過なくすごせれば、後は子どもがどうなろうと関係ないというのではなく、「仕事」であるならば結果に責任を持って、という意味合いがあったと思います。

あれから20年が過ぎ、今また何度目かの社会的養護の制度改革が行われています。施設や里親さんのところから大学等に進学する人たちのために対象年齢を22歳の年度末まで引き上げるなどという、中卒の子がたくさん社会に投げ出されていた頃には夢にも思わなかったような状況になってきました。しかし、どんな状況にあっても、目の前に在るこの子の背後には、生まれてから死ぬまでの一生が横たわっている。たとえ関わるのがどんなに短い時間であっても、

その重さを感じられ、尊重できる人でありたい と思います。今年もよろしくお願いいたします。

11月3日（木・文化の日）、第7回子ども虐待をなくそう！県民のつどいが宇都宮市東市民活動センターで行われました。

報告者 福田雅章（事務局長）

今年の県民のつどいは、映画会とシンポジウムの二本立て。企画が遅れたこと、そして1000円の参加費をとったこともあって、参加者は80名だった。

映画会

映画の題名は「さとにきたらええやん」。舞台は大阪市西成区釜ヶ崎。“日雇い労働者の街”と呼ばれてきたこの地で39年にわたり取り組みを続ける「こどもの里」。“さと”と呼ばれるこの場所は、障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳からおおむね20歳までの子どもが無料で利用することができる。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元を離れている子…そして親や大人たちも休息できる場として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、地域の貴重な集い場として在り続けてきた。映画では「こどもの里」を舞台に、時に悩み、立ち止まりながらも全力で生きる子どもたちと、彼らに全力で向き合う職員や親を含めた大人たちに密着。子どもたちの繊細な心の揺れ動きを丹念に見つめ、子どもも大人も抱える「しんどさ」と、関わり向き合いながら、ともに立ち向かう姿を追ったドキュメンタリーだ。（ここまでは映画チラシの文面を参考に執筆。）

真冬の年の瀬、“さと”の子ども達は手分けして夜回りに出かける。路上のホームレスの人に温かい飲み物を配ったり、襲撃に注意するよう声をかけるシーンが印象的だった。支えられている子どもが支える立場になる瞬間だ。

地域での子育て支援は、ひいては子ども



が支える側の大人になっていくことを目標として展開されなければならないことを気づかされた。釜ヶ崎という地域性もあるのだろうが、子どもも大人も、地域で暮らす人々がみんなで支えあう姿は、私たちが忘れてしまった“大切なもの”を再確認することができた。すべての人に観てもらいたい作品だ。

ところで、こどもの里は居場所からスタートして、その必要性からファミリーホーム、そして自立援助ホームを開設してきた。一方で、青少年の自立を支える会は自立援助ホームからスタートして、ファミリーホームそして子どもの居場所を開設してきた。真逆の展開であることが興味深い。

先日(1月5日)、こどもの里の代表の荘保共子さんにお会いした。“さと”を率いて40年近く。「どんな家庭、親であっても、親子分離せずに地域で育て上げていくこと。そうした

子どもは何だかんだあってもきちんと生きていく。」という言葉が印象的だった。

シンポジウム

シンポジウムは「子どもの居場所づくり事業を考える」をテーマに行われました。登壇したのは次の通りです。

コーディネーター	福田雅章(本会事務局長・子ども虐待防止ネットワークとちぎ代表)
シンポジスト	中野健作(栃木県若年者支援機構代表理事)
	石川浩子(ファミリーホームはなの家ホーム長)
	片桐洋史(児童家庭支援センターちゅうりっぷ相談支援員)

まず中野さんから、栃木県若年者支援機構の取組が紹介された。不登校・ひきこもり、発達障がい、生活困窮など、課題を抱えた子どもたちへの支援の実際、そして最近開所した「昭和こども食堂」の実践が報告された。子どもと直接対面することで、その子が抱える真の課題、ニーズが見えてくる。見える課題への支援はきっかけに過ぎず、そこから真のニーズを掘り起こしていき、地域を巻き込んで支援していくことの必要性を訴えた。

次に石川さんから、ファミリーホームができる地域の子育て支援についての実践報告があった。定員6名のうち1名は地域の子を預かるようにしている。児童相談所の一時保護所や児童養護施設に入所してしまうと、家庭ばかりか地域からも切り離されてしまう。地域で受け皿を作っていくことの必要性を訴えた。また、はなの家を利用した子(母子家庭)がホームの近くに居住し、子どもの登校支援等、養育を補完している実践例が紹介された。

最後に片桐さんから、児童養護施設に併設された児童家庭支援センター(児家セ)がの実践報告があった。出産や仕事の都合で短期間(1週間以内)だけ預かるショートステイ、宿泊を伴わないワイライステイのニーズが高まっている。現在9の市町と

契約しているが、一自治体ではレアケースゆえに見逃されているものが、児家セができたことで支援が届くようになった。結果、隠れていたニーズが確実に見えるようになってきた。田舎であっても、子どもを取り巻く大人の関係が希薄になり、子育ての孤立は確実に進んでいる。発達障がいの子、精神疾患を抱えた親、母子・父子家庭の就労問題等、支援を必要とする子ども家庭は増えている。

質疑応答の中で、子ども食堂のことが話題となった。各地にできつつあるが、大人のコミュニティーの場となり得ても、食事を本当に必要としている子に支援が届いているのか、との疑問が呈された。地方では子ども自身に移動手段がないと利用できないことが多い。送迎についても検討すべき、との意見だった。



星の家まつり便り ～2016年11月20日、わかくさアリーナにて 星の家まつりを開催しました～

2016年11月20日（日）、星の家まつりが行われました。今年も例年通り、わかくさアリーナでの開催でしたが、今年から体育館が新しくなったことに伴い、体育館前の駐車場を使っただけの模擬店等ができないという制約がある中での開催となりました。バザーのみの星の家まつりを覚悟しましたが、ありがたいことに、わかくさアリーナからすぐ近くにある宝木保育園さんが快く駐車場を貸して下さい、テント3つを張って焼きそば、唐揚げ、餃子等を作り、それを体育館内に運び込んでの販売が可能となりました。

天候にも恵まれ、沢山のお客様にご来場いただきました。当日関わって下さったボランティアさんの数は162名、その他、イベント出演者として多数の方にご協力いただきました。そして、純利益は180万円となりましたことをご報告いたします。青少年の自立を支える会の活動費として大切に使用させていただきます。

〈値付け〉

まつりに向け、10月26日（水）、30日（日）、11月2日（水）、6日（日）、9日（水）、13日（日）、16日（水）に、星の家にて値付け作業を行いました。26日は衣類、30日は手作り品という様にその日ごとに値付けするものを決めて、各日とも2～3時間ほど、和気あいあいとした雰囲気の中での作業となりました。値札を事前に作ってきてくださる方、物品を持参下さる方もいらっしゃいました。

7日間で延べ72名のボランティアさんが参加下さいました。



〈まつり前日〉

まつり前日の19日（土）は12時半に星の家に集合。まつり前3か月間ほど限定で、星の家近くに借りた物品保管用の平屋から、りぼんずの浜崎さんが用意して下さい下さったトラックに、バザー品を積み込みました。星の家OG、はなの家の中学生、月の家の小学6年生の男の子も手伝ってくれました。月の家の子は、2度目のお手伝い。今年もトラック荷台に乗り込み、みんながバケツリレーで運んできた段ボールの積み上げ助手をしたり、トラックに乗り込んで移動し、会場での荷下ろしもやってくれました。人手が少ない中での作業でしたが、皆さんテキパキと動いて下さり、ありがとうございました。

平屋の作業が一段落すると、林谷さんと木村さんのトラックは南大通りへ。旧星の家にあった物品と備品もわかくさアリーナには運ぶことができました。

その間、星の家では、篠原さん、吉澤さん、峰町教会さん、その他沢山の方からいただいた野菜の袋詰め作業を行いました。こちらの作業にもボランティアさんが来て下さり、お陰様でこれまではまつり当日行っていた作業を前日に終えることができました。

一方のわかくさアリーナでは、シートをひいたり、物品の入った段ボールを部門ごとに分けたりしました。責任者の方がいらしていた部門は、すでに物品を段ボールから出して並べているところもありました。



〈まつり当日〉

まつり当日は、駐車場係さん、各部門責任者さん、模擬店のテント設営の方は 8 時、焼きそば担当の方は 8 時半、その他ボランティアさんは 9 時に集合し、受付を済ませてから各部門で準備に入りました。

会場となった体育館も 9 時には開き、ボランティアさんは中へ。お客様も早い方は 9 時頃からいらして下さり、わかくさアリーナ内ロビーや廊下に並んで待っておられました。

10 時からは開会式があり、10 時半の開場時には、アフリカンダンスの方々が体育館内に設置したステージで盛り上げて下さる中、沢山のお客様が体育館内へと入ってこられました。

開店時人気だったのは日用品コーナーで、すぐに人だかりができていました。その後も、ステージでは、フラダンス、バンド、ゴスペルなどが披露され、ステージ前の椅子に座ってゆっくり鑑賞されるお客様もいらっしゃいました。

昼頃になると、お昼ご飯をお買い求めになる方々で、模擬店コーナーは混み合っていました。その裏では、ボランティアさんが宝木保育園駐車場と体育館を何往復もして、ピザや焼きそばなどを運んでくださっていました。

13 時になると、オークションがスタートし、各売り場では値下げをするところも見られました。気が付くと、野菜コーナーは完売、食品コーナーも完売だった様です。オークションは 150 点以上の品物があり、時間内にはさばききれないほどでした。恒例のお酒の他、

宝石やアコーディオンも出品され、お客様の注目を集めていました。

おつりのお金が足りない、紙袋が足りないなど、こちらの不手際の部分も、ボランティアさん達が自主的に隣の売り場で両替をしたり、本部まで取りに来て下さったりと、臨機応変に動いて下さっている姿が印象的でした。

15 時になると、全ての部門の販売は終了となり、ボランティアさんみんなでの片付け作業となりました。売れ残った物品を段ボールに詰めたり、その段ボールをトラックに積み込んだり、机や椅子を片付けたり、皆さん、手際よく動いて下さいました。

16 時になると閉会式を行い、最後まで残って下さったボランティアさんたちと記念写真となりました。

残品や備品をトラック 2 台に積み込み、星の家近くの平屋と南大通りの旧星の家に運び終えたのが 18 時頃でした。



今年も、大盛況のうちに星の家まつりを終えることができました。これもひとえに物品をご提供下さったり、ボランティアとして関わって下さったり、その他さまざまな形でご協力いただいた皆様のお陰です。ありがとうございました。

今回、模擬店でご協力いただいた方から、「お客様と直接やり取りをするのが楽しみなので、次回は模擬店 OK な会場で」という声をいただいています。ピザも窯持参で焼いて下さいました。その様子をお客様にも是非見ていただきたかったです。来年度、星の家ま

つりをどこの会場で行うのが課題です。どこかご存知の方がいらっしゃいましたら、お教えてください。

最後に。毎年星の家まつりには、星の家 OB、OG が来てくれます。今年も OB、OG が星さん、美帆さんやボランティアさん達と談笑している姿がありました。その様子を目にすると、これまで星の家で暮らしてきた（元）子どもたちと、これまでの星の家を支えてきて下さった方々の存在を感じずにはいられません。温かい気持ちになる、そんな星の家まつりでした。

食器	210,240	焼きそば	80,550
日用品	278,640	野菜	95,640
手作り雑貨	109,915	野菜(和野菜)	5,000
食品	140,576	パン	98,040
本・CD	40,056	飲み物	21,000
おもちゃ	74,455	唐揚げ	26,250
オーガニック	324,110	ぎくざ	23,750
特売品	62,945	ピザ	40,000
合計			1,631,168

売り上げ速報値
衣類・靴カバンの237,214円が抜けています。
純利益は1,810,944円でした。

8月11日（木・山の日）、第18回青少年の自立を支える会チャリティーコンサートが栃木県総合文化センター大ホールで開催されました。

恒例のチャリティーコンサート。今年は「倉沢大樹・島田絵里&石川典子と仲間達によるアフリカンダンス・ミュージック」でした。5年ぶりに倉沢大樹さんを迎えてのコンサート。来場者は1000人を超えて盛況でした。

出演者の皆さん、ボランティアの皆さん、会場に足を運んでくださった皆さん、会場には来られなくてもチケットを購入してくださった皆さん、すべての人に感謝です。

なお、収支は以下の通りです。

収入の部	<u>1,727,177円</u>
チケット代	1,524,300円
広告代	128,000円
寄付・募金	74,877円
支出の部	<u>897,794円</u>
会場費・音響照明	601,710円
印刷通信・雑費等	296,084円
差引利益	<u>829,383円</u>



《事務局報告》

ホームページをリニューアルしました。
ながらく更新されなかった HP ですが、この
たびリニューアルしました。「青少年の自立を
支える会」で検索してください。

寄

付・会費納入者

平成28年6月1日から平成28年12
月末まで 敬称略・順位不同

●正会費

青木孝之 阿久津マキ子 浅香 勉 浅香のり子
阿部充子 天池悦子 五十嵐紀久子 石原栄子
糸井 克 伊藤 一 伊藤米子 岩田友子 岩本友
子 宇賀神浩人 浦部延子 江連京子 遠藤 忠
大島 聡 大堀美知 小川暢子 沖杉香織 荻原
耕三 小材嘉子 小友 茂 小野澤喜美 片桐洋
史 加藤祥圭 加藤雅子 川崎直美 川鍋節子 北
川良江 倉持まゆみ 黒川裕子 毛塚義明 古口
敏弘 越井みどり 小林幸正 近藤峰明 齊藤幸
子 齋藤修一 酒井由理 佐々木康子 佐藤 栄
眞田富美子 渋川典子 白上桂子 鈴木友之 瀬
畑宥文 高橋昭彦 高原恵子 竹内明子 田崎祥
江 蓼沼初枝 田村 隆 田村範子 田村嘉應 千
野ヤイ 塚本明子 寺崎恵美子 直井 茂 中津
原聖 仲西美奈子 中村明美 中村恵美子 中村
民子 西山智彦 沼尾浩平 野澤辰郎 荻原寿夫
橋本寿美子 橋本正行 塙 智江 桧山康子 平岡
真由美 平木千紗子 福澤英子 福田喜江子 藤
井幸子 藤平一恵 前川隼子 増山民江 増山 均
宮下 浩 宮下雅枝 村山博之 安 正幸 山口恵
子 若林勝治 渡辺やす 渡辺陽子 渡辺ヨシ子
浅川信明 天野幸子 荒井敏子 荒川泰行
安城興一 池谷正宏 石原幹司郎 北村光弘
齋藤洋子 鈴木啓市 鷹栖律子 多門 孝
手塚美知子 豊田省子 中村和子 野中芳久
福田雅章 星 紀彦 本田紘海 増淵民子 松
本甚一 柳田 俊 矢野浩美 矢野正広 山口
京子 山田昭利 横松 晃

●賛助会費

青木紀夫 青野浩子 青柳美子 阿部美代子
荒井敏子 荒川明美 有村秀人 池 節子 池
田とし江 石原敏江 井田紫衣 井上紀代子
岩村由紀乃 上野貞雄 上野統子 江田郁夫
枝野啓子 大島幸治 太田黒武久 大塚武昭

設立 20 周年記念式典を行います。

7月15日(土)

式典 とちぎ青少年センター(アミークス)
懇親会 コンセーレ

大野育代 大畑玲子 緒方幸枝 岡田敏江
小川 守 片岡昌子 金澤伸子 金子澄子
金子 達 加納真理 上岡和江 亀田文子
菊地章夫 菊地恵美子 菊池崇訓 北村長栄
小島寿美代 小平幸二 狐塚良子 小森峯子
斎藤孝子 齋藤昌枝 肴倉恵美子 坂本恭男
櫻井きよ子 桜井信正 佐藤文代 佐藤正行
佐藤由紀子 佐藤善光 澤田政孝 塩澤幹雄
芝野行雄 下山千恵子 (有)シロアム 菅又
里美 須黒雪枝 鈴木八重子 鈴木由香理
関谷好久 曾根洋子 高久礼子 高野省二
高野孝男 高橋とも子 高橋真知子 高橋由
美 田代英夫 館野晴代 鶴田智子 鶴田
誠 東城 守 長久保ウタ子 中村右子 中
山裕美子 那須恵子 西岡 隆 根本智子
橋本伸子 早川尚幸 原沢志壽於 原田寛子
比企達男 比企ルツ 人見智子 日野奈々子
福田静江 福田仁美 福田ミヨ 福田泰子
藤田美代子 古澤栄子 甫坂 哲 増田容子
鱒淵澄子 松田典子 村尾光子 村上信子
森久美子 谷田部武男 八巻正治 山口慶之
助 山崎順子 湯沢千恵子 湯澤典子 吉澤
卓男 吉田依子 林谷和憲 林谷政子 和久
井隆 鷲尾良司 渡部桂子 渡辺秀子 和田
均 新井重陽 井田紫衣 市川義章 上田昌
弘 浦部延子 岡本貞子 小野崎千鶴子 柿
沼恵美子 角海京子 加藤勝子 上明戸晋史
上明戸智子 川辺佐知子 川辺 晋 君嶋福
芳 児玉恵里 小林三千代 小堀栄美子 齊
藤好江 齋藤義弘 坂本節子 坂本政子 佐
藤明宏 竹内美由紀 谷崎 誠 寺内晴美 橋
本恵子 福岡 昭 藤本 早 松島澄子 松本
美佳子 村山雅子 山口静江 山口尚子 吉
田久枝 渡辺厚子

●団体

イトランド株式会社 医療法人 佐藤クリ
ニック ゆうゆう保育園 (有) 在宅サポート
こころ 弁護士法人のぞみ法律事務所

●寄付者

青木孝之 阿久津美千代 阿久津嘉子 浅香
勉 浅香のり子 浅野道子 浅野チカヨ 浅

野道子 浅野子カヨ 東 瑞恵 阿部充子
新井照子 荒川明美 荒蒔克恵 飯塚むつみ
五十嵐紀久子 池 節子 池田とし江 池谷
正宏 石塚純江 石塚 毅 石塚 毅 石原
栄子 糸井 克 伊藤米子 岩田友子 心が
ほんわかあたたまる一人語りの会 宇都宮更
生保護女性会 海老原清修 遠藤 忠 大嶋
洋子 大野育代 大畑玲子 岡田みち子 岡
久子 岡部昇子 小川君子 小川八枝子 萩
原耕三 小材嘉子 落合敬子 柿崎みどり
梶田みどり 加藤加代子 加藤祥圭 加藤雅
子 加藤美恵子 加納真理 川田俊彦 川辺
晋 菊池崇訓 岸本まちこ 喜谷由紀 倉田
克己 倉持まゆみ 黒川裕子 小島寿美代
小平光志 小林三枝子 小林幸正 小堀 泉
近藤峰明 齊藤幸子 斎藤孝子 齋藤洋子
肴倉恵美子 坂本政子 佐々木康子 笹沼栄
子 佐藤明宏 佐藤由紀子 佐野市更生保護
女性会 三栄不動産株式会社 椎野三千子
渋井洋子 渋川典子 女性の自立を支える会
新宮晴子 菅谷直子 須黒雪枝 鈴木貢四郎
鈴木俊男 鈴木友之 関口三恵 関 道夫
仙波美恵子 早乙女順子 (株)太陽警備保障
高木 勇 高橋昭彦 高原恵子 竹内敏雄
蓼沼初枝 館野晴代 田村孝夫 田村嘉應
土屋キミ 寺崎恵美子 東電労組栃木地区本
部 栃木少年友の会 直井 茂 那珂川町小
川更生保護女性会 長島久登 中津原聖 永
野弘子 中原清一 中村民子 中村光子 中
村右子 日本基督教団 西那須野教会 沼尾
浩平 沼尾浩平 野澤洋子 萩原寿夫 埴
智江 原澤美穂子 原 大介 原田寛子 人
見智子 桧山康子 平野 敬 福泉水玲 福
澤英子 福田静江 福田知美 富士ゼロック
ス栃木(株) 富士ゼロックス栃木端数倶楽部
古頭岳夫 星 紀彦 本澤祥子 増淵靖子

松岡靖子 松本晶子 松本順子 安 正幸
山口恵子 山本 緑 吉田依子 林谷政子
和久井隆 和久井孝洋 渡辺陽子 渡辺ヨシ
子 新井重陽 荒井敏子 荒川泰行 井田紫
衣 上田昌弘 角海京子 上明戸晋史 上明
戸智子 齋藤洋子 手塚美知子 寺内晴美
野中芳久 福田雅章 増淵民子 松本甚一
柳田 俊 矢野正広 山口京子 横松 晃

●寄付者(毎月)

鷹栖律子 中村和子 伊達悦子 多門 孝
村山雅子 小野崎千鶴子 福澤宏文 坂本政
子 渡辺厚子 児玉恵里 本田紘海 日原典
子 佐藤貴美子 齊藤好江 小堀栄美子 鎌
田篤子 齋藤義弘 倉前満里子 浦部延子
藤江泰子

なお、沢山の方から食品や日用品などの物品
をいただいております。ご芳名は省略させて
いただきますが感謝しお礼申し上げます。

ありがとうございました!

ご不明な点がございましたら事務局までお問
い合わせください。会費の納入及び寄付につ
いては預金口座の引き落としも可能ですので
事務局にご相談ください。

【編集後記】

月の家のスタッフを募集しています。

11月は、子ども虐待防止県民のつどい、さ
らに星の家まつりと、慌ただしい毎日でした。
星の家まつりは、新築の建物が会場で、模擬
店ができないなど何かと制約の多かったのだ
ですが、バザー物品が例年以上に集まり、大盛
況でした。今年も頑張ります。

【会費納入及びご寄付の郵便振替先について】

加入者名：青少年の自立を支える会 口座番号：00140-3-366972

* 通信欄に会員種別・寄付金及びその金額をご記入ください。また、ご入会の方は“入会”とご記入ください。

会員種別と金額は、

正会員：5,000円、賛助A：5,000円/一口、賛助B：1,000円/一口、賛助団体20,000円/一口です。

振込などの手間が要らない「会費等の金融機関引落とし」のご利用をお勧めしております!

発行者/ 認定特定非営利活動法人 青少年の自立を支える会

所在地/ 320-0037 栃木県宇都宮市清住 1-3-48

発行日/ 2017年1月16日

電話/ 028-666-6023 FAX/ 028-666-6024

発行責任者/ 星 俊彦

Eメール/ sasaeru@snow.ucatv.ne.jp

編集責任者/ 福田雅章

HP/ <http://www2.ucatv.ne.jp/~sasaeru.snow/>

